

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7671148号
(P7671148)

(45)発行日 令和7年5月1日(2025.5.1)

(24)登録日 令和7年4月22日(2025.4.22)

(51)国際特許分類	F I		
A 6 1 L 9/12 (2006.01)	A 6 1 L 9/12		
A 0 1 M 1/20 (2006.01)	A 0 1 M 1/20	D	
B 6 5 D 83/00 (2006.01)	B 6 5 D 83/00	F	
B 6 5 D 85/00 (2006.01)	B 6 5 D 85/00	A	

請求項の数 5 (全14頁)

(21)出願番号	特願2021-7650(P2021-7650)	(73)特許権者	000186588
(22)出願日	令和3年1月21日(2021.1.21)		小林製薬株式会社
(65)公開番号	特開2022-112042(P2022-112042 A)		大阪府大阪市中央区道修町四丁目 4 番 1 0 号
(43)公開日	令和4年8月2日(2022.8.2)	(74)代理人	100124039
審査請求日	令和5年12月11日(2023.12.11)		弁理士 立花 顕治
		(72)発明者	下村 真由香
			大阪府茨木市豊川一丁目 3 0 番 3 号 小 林製薬株式会社 中央研究所内
		(72)発明者	肖 文沁
			大阪府茨木市豊川一丁目 3 0 番 3 号 小 林製薬株式会社 中央研究所内
		(72)発明者	平川 宣幸
			大阪府茨木市豊川一丁目 3 0 番 3 号 小 林製薬株式会社 中央研究所内
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 薬液揮散装置

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

薬液が収容され、下端部に前記薬液が排出される排出部が形成された容器と、
前記薬液を吸収し、揮散させる揮散体と、
少なくとも前記容器の下端部を覆うカバー部材と、
を備え、
前記揮散体は、前記容器と前記カバー部材との間に収容され、
前記カバー部材は、薬液を溜める貯留部を有し、
前記容器は、前記排出部に取り付けられ、前記薬液を吸収可能な第 1 吸液部材及び第 2 吸液部材を備え、
前記容器内の薬液は、前記第 1 吸液部材及び第 2 吸液部材を介して外部に排出されるように構成され、
前記第 1 吸液部材は、前記揮散体に接し、
前記第 2 吸液部材は、前記排出部から前記揮散体に接することなく、前記貯留部まで延びている、薬液揮散装置。

【請求項 2】

前記貯留部は、前記カバー部材において、前記揮散体の下方に配置され、
前記揮散体には、前記第 2 吸液部材が挿通される貫通孔が形成されている、請求項 1 に記載の薬液揮散装置。

【請求項 3】

前記貯留部は、前記カバー部材において、前記揮散体の下方に配置され、
前記第1吸液部材は、貫通孔を形成する環状に形成され、
前記第2吸液部材は、前記第1吸液部材の貫通孔に挿通されて、前記貯留部まで延びるように形成されている、請求項1に記載の薬液揮散装置。

【請求項4】

前記カバー部材は、
底壁部と、
前記底壁部の周縁部から起立し、前記揮散体から揮散される薬液を外部に放出するための少なくとも1つの揮散孔が形成された側壁部と、
を備えている、請求項1から3のいずれかに記載の薬液揮散装置。

10

【請求項5】

前記揮散体は、前記揮散孔と対向する位置まで延びている、請求項4に記載の薬液揮散装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、薬液揮散装置に関する。

【背景技術】

【0002】

薬液揮散装置には、種々のタイプのものがあるが、例えば、特許文献1に記載のような倒立型の薬液揮散装置がある。この薬液揮散装置は、薬液が収容された容器と、この容器の下端部を覆う下容器と、下容器に収容される揮散体と、を備えている。容器の下端部には吸液芯が設けられており、この吸液芯を介して排出される薬液が揮散体に吸収され、下容器に形成された揮散孔から外部に揮散するようになっている。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】国際公開2017/077946号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0004】

上記の薬液揮散装置では、揮散体から溢れた薬液は下容器に形成された液溜り室に溜まるようになっているが、薬液が多量に排出された場合には、薬液が無駄になるおそれがある。また、装置を移動したときなどに、液溜り室の薬液が揮散孔から漏れるおそれもある。

【0005】

本発明は、上記問題を解決するためになされたものであり、容器から排出された薬液により周囲を汚すのを抑制することができる薬液揮散装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係る薬液揮散装置は、薬液が収容され、下端部に前記薬液が排出される排出部が形成された容器と、前記薬液を吸収し、揮散させる揮散体と、少なくとも前記容器の下端部を覆うカバー部材と、を備え、前記揮散体は、前記容器と前記カバー部材との間に収容され、前記カバー部材は、薬液を溜める貯留部を有し、前記容器は、前記排出部に取り付けられる第1吸液部材及び第2吸液部材を備え、前記容器内の薬液は、前記第1吸液部材及び第2吸液部材を介して外部に排出されるように構成され、前記第1吸液部材は、前記揮散体に接し、前記第2吸液部材は、前記排出部から前記揮散体に接することなく、前記貯留部まで延びている。

40

【0007】

上記薬液揮散装置において、前記貯留部は、前記カバー部材において、前記揮散体の下方に配置され、前記揮散体には、前記第2吸液部材が挿通される貫通孔を形成することが

50

できる。

【０００８】

上記薬液揮散装置において、前記貯留部は、前記カバー部材において、前記揮散体の下方に配置され、前記第１吸液部材は、貫通孔を形成する環状に形成され、前記第２吸液部材は、前記第１吸液部材の貫通孔に挿通されて、前記貯留部まで延びるように形成することができる。

【０００９】

上記薬液揮散装置において、前記カバー部材は、底壁部と、前記底壁部の周縁部から起立し、前記揮散体から揮散される薬液を外部に放出するための少なくとも１つの揮散孔が形成された側壁部と、を備えることができる。

10

【００１０】

上記薬液揮散装置において、前記揮散体は、前記揮散孔と対向する位置まで延びるように形成することができる。

【発明の効果】

【００１１】

本発明に係る薬液揮散装置によれば、容器から排出された薬液により周囲を汚すのを抑制することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１２】

【図１】本発明に係る薬液揮散装置の一実施形態を示す斜視図である。

20

【図２】容器の側面図である。

【図３】容器本体の側面図である。

【図４】容器本体を上から見た斜視図である。

【図５】容器本体の断面図である。

【図６】蓋部材の斜視図である。

【図７】蓋部材の断面図である。

【図８】カバー部材の斜視図である。

【図９】カバー部材の平面図である。

【図１０】カバー部材の断面図である。

【図１１】揮散体を上方から見た斜視図である。

30

【図１２】揮散体を容器に取り付けたときの側面図である。

【図１３】薬液揮散装置の断面図である。

【図１４】第１吸液部材、第２吸液部材、及び揮散体の他の例を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１３】

以下、本発明の一実施形態に係る薬液揮散装置について、図面を参照しつつ説明する。

【００１４】

< １．薬液揮散装置の全体構成 >

図１は本実施形態に係る薬液揮散装置の斜視図である。図１に示すように、この薬液揮散装置は、薬液が収容される容器１０、この容器１０の下端部を覆うカバー部材２０と、及び容器１０とカバー部材２０との間に収容され、容器１０から排出される薬液を揮散させる揮散体（図１では省略）３０と、を備えている。以下、これらの部材について詳細に説明する。

40

【００１５】

< １－１．容器 >

図２は容器の側面図である。図２に示すように、容器１０は、下端部に開口が形成され、薬液が収容される容器本体１と、この容器本体１の下端部の開口を閉じる蓋部材２と、を備えている。以下、これらの部材について、詳細に説明する。

【００１６】

< １－１－１．容器本体 >

50

図３は容器本体の斜視図、図４は容器本体を上から見た斜視図、図５は容器本体の断面図である。図３～図５に示すように、容器本体１は、円筒状に形成された本体部１１と、この本体部１１の下端に連結される連結部１２と、本体部１１よりも小径で連結部１２の下端から下方に延びる円筒状の排出部１３と、を備え、これらが一体的に形成されている。本体部１１は、円筒状の側壁部１１０と、この側壁部の上端を閉じる天壁部１１５と、を備えている。

【００１７】

側壁部１１０は、上下方向に延びる第１部位１１１と、この第１部位１１１よりもやや小径で第１部位１１１の下端に連結された第２部位１１２と、この第２部位１１２よりもやや小径で第２部位１１２の下端に連結された第３部位１１３と、で構成されている。したがって、第１部位１１１と第２部位１１２との境界には段差が形成され、第２部位１１２と第３部位１１３の境界にも段差が形成されている。

【００１８】

第１部位１１１は天壁部１１５の周縁から下方に延び、側壁部１１０の大半を構成する。また、第１部位１１１には上下方向の全体に亘って延びる第１溝１１４が周方向に所定間隔をおいて形成されている。第１部位１１１の下縁は、円形状に形成されているが、軸線を挟んで向かい合う一對の部位が下方に円弧状に突出している。以下、これらの部位を下突出部１１７と称することとする。また、両下突出部１１７の間には、上方にやや円弧状に突出する一對の部位が形成されている。以下、これらの部位を上突出部１１８と称することとする。このように、第１部位１１１の下縁は、一對の下突出部１１７と一對の上突出部１１８とがなめらかに連結された曲線によって構成されている。

【００１９】

第２部位１１２の下縁は第１部位１１１の下縁と平行に延びている。したがって、第２部位１１２の上下方向の幅は概ね一定である。また、第２部位１１２には、周方向に延びる一對の取付溝１１９が所定間隔をおいて形成されている。これら取付溝１１９は、上述した下突出部１１７に対応する位置にそれぞれ形成されている。第３部位１１３の下縁は、側面視において水平方向に延びており、この第３部位１１３の下縁に連結部１２が連結されている。

【００２０】

連結部１２は、下方にいくにしたがって径方向内方に延びる傾斜面によって形成されており、この連結部１２の下端に円筒状の排出部１３が連結されている。排出部１３の下端には下方に開放された開口１３１が形成されている。また、排出部１３の外周面の下端付近には雄ネジ１３２が形成されている。

【００２１】

図４及び図５に示すように、天壁部１１５は、平面視円形状に形成されており、天壁部１１５の内面の中央には下方に突出する第１突出部１１６ａが形成されている。第１突出部１１６ａは、断面円弧状に形成されている。そして、この第１突出部１１６ａを中心として、天壁部１１５の内面には、同心円状に、円形状の第２突出部１１６ｂ及び第３突出部１１６ｃが形成されており、これら第２突出部１１６ｂ及び第３突出部１１６ｃは、下方に断面円弧状に突出している。また、これら突出部１１６ａ～１１６ｃに対応するように、天壁部１１５の上面には凹部１１６ｅ～１１６ｇが形成されている。

【００２２】

容器本体１は、上述した本体部１１、連結部１２、及び排出部１３によって囲まれる内部空間を有しており、この内部空間に薬液が収容される。

【００２３】

< １－１－２．蓋部材 >

次に、蓋部材２について、図６及び図７を参照しつつ説明する。図６は蓋部材の斜視図、図７は蓋部材の断面図である。図６及び図７に示すように、蓋部材２は、円筒状の側壁部２１と、この側壁部２１の下部を塞ぐ底壁部２２と、を備えている。側壁部２１の内面には、雌ネジ２１１が形成されており、この雌ネジ２１１と容器本体１の排出部１３の雄

10

20

30

40

50

ネジ１３２とが螺合するようになっている。底壁部２２には、円形状の貫通孔２２１が形成されており、この貫通孔２２１に円柱状の第１吸液部材２３と第２吸液部材２４とが挿通されている。これら第１吸液部材２３と第２吸液部材２４とは、貫通孔２２１を液密に塞ぐシール部材２５に取り付けられている。したがって、後述するように、容器１０の薬液は第１吸液部材２３及び第２吸液部材２４を介して容器の外部に排出されたり、外部の薬液を吸い上げるようになっている。

【００２４】

第１吸液部材２３は、第２吸液部材２４よりも短く形成されている。また、第１吸液部材２３及び第２吸液部材２４を形成する材料は、薬液を吸収できる材料であれば、特に限定されない。例えば、紙、布など種々の材料を用いることができ、好ましくは、不織布が望ましく、不織布はパルプ、ポリエステル、レーヨンなどに結着剤を混ぜたもので形成することができる。

【００２５】

<１－２．カバー部材>

次に、カバー部材２０について、図８～図１０を参照しつつ説明する。図８はカバー部材を上方から見た斜視図、図９はカバー部材の平面図、図１０はカバー部材の断面図である。

【００２６】

図８～図１０に示すように、カバー部材２０は、円板状の底壁部３と、底壁部３の外縁よりもやや内側から上方に起立する円筒状の側壁部４と、を備えており、これらによって囲まれた空間に薬液を溜めることができるようになっている。すなわち、この空間が本発明の貯留部を構成する。カバー部材２０が容器１０に取り付けられたとき、側壁部４の上端は、容器本体１の第１部位１１１と第２部位１１２との境界の段差に接し、側壁部４の内面が第２部位１１２に接するようになっている。そのため、側壁部４の上端は、第１部位１１１の下端に沿うような形状に形成されている。また、カバー部材２０と容器１０とを着脱自在に固定するため、側壁部４の上端付近の内面には周方向に延びる一対の突条４１が、周方向に延びるように形成されている。これら突条４１は、容器本体１の第２部位１１２に形成された取付溝１１９に着脱自在に嵌まるようになっている。

【００２７】

側壁部４には、上下方向に延びる複数の長穴状の揮散孔４２が形成されており、これら揮散孔４２を介して側壁部４の内部空間と外部とが連通している。後述するように、これら揮散孔４２から薬液が外部に揮散するようになっている。

【００２８】

複数の揮散孔４２は、上下方向の長さがほぼ同じであり、側壁部４の周方向に沿って所定間隔をおいて形成されている。そして、このように並ぶ各揮散孔４２の上端は、側壁部４の上端と同じ長さの間隔をおくように位置している。したがって、周方向に並ぶ複数の揮散孔４２も、側壁部４の上端に合わせて、上下方向の位置が変化するように並んでいる。

【００２９】

各揮散孔４２の上端と側壁部４の上端との間には、上下方向に延びる第２溝４３が形成されている。同様に、各揮散孔４２の下端と側壁部４の下端との間には、上下方向に延びる第３溝（上下溝）４４が形成されている。そして、カバー部材２０が容器１０に取り付けられたときには、容器の第１溝１１４、カバー部材２０の第２溝４３、揮散孔４２、及び第３溝４４が上下方向に並ぶように配置される。このように、複数の溝１１４、４３、４４と揮散孔４２が上下方向に並ぶことで、デザイン的な統一感が得られる。

【００３０】

底壁部３は、側壁部４の外径よりも大きい外径を有している。すなわち、底壁部３は、側壁部４の下端から径方向外方へ突出している。この底壁部３が、所定の設置面に設置され、薬液揮散装置全体を支持するようになっている。

【００３１】

また、底壁部３と側壁部４との境界付近、つまり側壁部４の下端には、周方向全体に亘

10

20

30

40

50

って延びる第4溝（周方向溝）45が形成されており、この第4溝45に各第3溝44の下端が連結されている。

【0032】

<1-3. 揮散体>

次に、揮散体について、図11及び図12を参照しつつ説明する。図11は揮散体を上方から見た斜視図、図12は揮散体を容器に取り付けたときの側面図である。

【0033】

図11及び図12に示すように、この揮散体30は、蓋部材2に取り付けられるようになっており、矩形形状の板状の基板51と、この基板51の対向する側辺から上方に延びる一対の矩形形状の揮散板52と、を備えている。基板51の外径は、蓋部材2の外径と概ね同じである。基板51には、中心からややずれた位置に円形状の貫通孔511が形成されており、この貫通孔511に、蓋部材2の第2吸液部材24が挿通されるようになっており、第2吸液部材24の外径よりも大きい内径を有している。

10

【0034】

図12に示すように、揮散体30が蓋部材2に取り付けられたときには、蓋部材2の底壁部22が基板51の上面と対向するようになっている。このとき、第1吸液部材23が基板51に接し、第2吸液部材24が基板51の貫通孔511から下方に延びるようになっている。第2吸液部材24は、基板51には接しないようになっている。

【0035】

また、揮散体30が蓋部材2に取り付けられたときには、揮散板52は、容器本体1の排出部13を側方から覆うように配置され、揮散板52の上端は、容器本体1の第3部位113付近に位置している。したがって、揮散板52は、カバー部材20の揮散孔42と概ね対向する位置に配置される。

20

【0036】

揮散体30は、薬液を吸収し外部に揮散させることができるような材料であれば、特に限定されない。例えば、上述した各吸液部材23、24と同様の材料で形成することができる。

【0037】

<1-4. 薬液>

容器10に収容される薬液は、機能性成分として、芳香成分を有する。但し、これ以外にも、消臭成分、防虫成分、抗菌成分など種々の成分を含有することができる。このような機能性成分は、油性及び水溶性のいずれであってもよい。

30

【0038】

また、このような薬液は、例えば、界面活性剤、香料、防腐剤、UV吸収材、及び水等を調製することで生成することができる。

【0039】

<2. 薬液揮散装置の組立と使用方法>

次に、薬液揮散装置の組み立てについて、図13を参照しつつ説明する。図13は薬液揮散装置の断面図である。まず、容器本体1に薬液を収容し、蓋部材2により排出部13の下端部を閉じる。次に、上述したように蓋部材2に揮散体30を取り付ける。続いて、カバー部材20を容器10に取り付ける。このとき、カバー部材20は、揮散体30が取り付けられた容器10を下側から覆うように取り付けられる。図13に示すように、カバー部材20の取り付けが完了した状態では、第2吸液部材24がカバー部材20の底壁部3の上面に接するように構成されている。但し、後述するように薬液を吸い上げることができるのであれば、必ずしも底壁部3に接していなくてもよい。

40

【0040】

次に、薬液の揮散について説明する。図13に示すように、薬液は第1吸液部材23及び第2吸液部材24を介して容器本体1から外部に排出されるが、このうち第1吸液部材23は揮散体30に接しているため、薬液は、第1吸液部材管23を介して揮散体30のへ移動する。そして、揮散体30に吸収された薬液は揮散され、さらに揮散孔42から薬

50

液揮散装置の外部に揮散されていく。これにより、機能成分による芳香効果を得ることができる。

【0041】

ところで、容器本体1から薬液が過剰に排出された場合には、揮散体30に薬液を保持できず、下方に漏れることがある。揮散体30から漏れた薬液は、図13に示すように、カバー部材20の内部空間に溜まっていく。ここで、容器10から延びる第2吸液部材24は、底壁部3の上面まで達しているため、内部空間に溜まった薬液に浸かる。そのため、内部空間に溜まった薬液は第2吸液部材24に吸い上げられ、容器10に戻される。

【0042】

容器10内の薬液がなくなった場合、あるいは少なくなった場合には、薬液を補充することができる。すなわち、カバー部材20を容器10から取り外した後、蓋部材2を容器本体1から取り外し、排出部13の開口から容器本体1内に薬液を補充する。

【0043】

<3. 特徴>

以上のように構成された薬液揮散装置によれば、以下の効果を得ることができる。

(1) カバー部材20には、底壁部3と側壁部4とで囲まれた内部空間が形成されているため、揮散体30に保持できずに漏れた薬液を内部空間に溜めることができる。また、容器本体1から延びる第2吸液部材24は、内部空間の底面（底壁部3の上面）まで延び、溜まった薬液に浸かるため、薬液を吸い上げて容器本体1に戻すことができる。したがって、過剰な薬液が容器10から排出され、カバー部材20に溜まったとしても、容器本体1に戻すことができるため、薬液が無駄になるのを抑制することができる。

【0044】

また、内部空間に溜まった薬液を容器本体1に戻すことができるため、内部空間に溜まる薬液の量が増えるのを防止することができる。そのため、例えば、薬液揮散装置を動かしたときに、薬液がカバー部材20から外部へ流れ出るのを防止することができる。よって、薬液揮散装置の周囲が薬液によって汚れるのを防止することができる。

【0045】

(2) 容器10の排出管22に弁部材23が設けられ、カバー部材20が容器10に取り付けられて突部32によって押圧されるまでは、弁部材23が閉状態にある。したがって、組立時に容器10から薬液が漏れるのを防止できる一方、カバー部材20を容器10に取り付けたときには、弁部材23が突部32によって押圧されて開状態になるため、カバー部材20の容器10への取付と同時に薬液を揮散させることができる。

【0046】

(3) カバー部材20の外周面において、各揮散孔42の下端から下方に延びる第3溝44が形成されているため、例えば、容器10の交換時に揮散孔42から薬液が漏れた場合でも、薬液はその下方にある第3溝44に溜まるため、漏れた薬液が目立つのを抑制することができる。さらには、第3溝44に薬液を保持できるため、薬液揮散装置の周囲が薬液によって汚れるのを防止することができる。

【0047】

(4) カバー部材20の側壁部4の下端に第4溝45が形成されているため、例えば、容器10の交換時に揮散孔42から薬液が漏れ、側壁部4に伝って下方に流れたとしても、その薬液を第4溝45に保持することができる。したがって、漏れた薬液が目立つのを抑制することができる。さらには、第4溝45に薬液を保持できるため、薬液揮散装置の周囲が薬液によって汚れるのを防止することができる。

【0048】

(5) 容器本体1の天壁部15の内面に下方に突出する第1～第3突出部116a～116cが形成されているため、天壁部15に付着した薬液を突出部116a～116cの先端に集まりやすくすることができる。その結果、突出部116a～116cの先端に集まった薬液が落下し、天壁部15に付着したままになるのを抑制することができる。したがって、薬液が容器10内に残っているにもかかわらず、排出できないという不具合を抑制

10

20

30

40

50

することができる。

【0049】

特に、本実施形態では、突出部116a～116cが同心円状に隣接しているため、突出部116a～116cの間に付着した薬液をいずれかの突出部116a～116cに誘導しやすい。また、第2及び第3突出部116b，116cが連続した円形状に形成されているため、天壁部15のいずれの位置に付着した薬液も、突出部116b，116cのいずれかの箇所に誘導しやすい。したがって、薬液が天壁部15に付着したままになるのをさらに抑制することができる。

【0050】

<4. 変形例>

以上、本発明の一実施形態について説明したが、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない限りにおいて、種々の変更が可能である。例えば、以下の変形が可能である。また、以下の変形例の要旨は適宜組み合わせることができる。

【0051】

<4-1>

第1吸液部材23、第2吸液部材24、及び揮散体30の形状は特には限定されない。すなわち、第1吸液部材23を介して排出された薬液が揮散体30に移動でき、第2吸液部材24がカバー部材20の内部空間に溜まった薬液を吸い上げることができればよい。例えば、図14に示すように、第1吸液部材23及び基板51を環状に形成し、これらが接するようにする。そして、第2吸液部材24が第1吸液部材23及び基板51を挿通して下方に延びるように形成することができる。このとき、第1吸液部材23と基板51とを一体化することもできる。

【0052】

<4-2>

揮散体30は、上述したような2つのパーツ51，52でなくてもよいが、薬液を効率よく装置外部に揮散するため、揮散体30の一部が揮散孔42と対向する位置付近まで延びていることが好ましい。また、薬液を吸収し、外部に揮散できるのであれば、揮散体30を構成する材料も特には限定されない。また、複数の材料で揮散体30を構成することもできる。

【0053】

<4-3>

容器10の形状は特には限定されず、少なくとも薬液を収容できる内部空間が形成され、排出部13から第1及び第2吸液部材23，24を介して外部に薬液を排出したり、吸引できればよい。

【0054】

<4-4>

カバー部材20の構成は特には限定されず、少なくとも容器10の下端部を覆い、薬液を溜める内部空間が形成されていればよい。但し、薬液を溜める内部空間の位置は特には限定されず、カバー部材20内のいずれの位置であってもよい。また、揮散孔42の形状、位置、溝43～45の有無も含めたカバー部材20の形状は種々の変更が可能である。例えば、カバー部材20と容器10との間に隙間を形成できれば、揮散孔42は必ずしも必要ではない。また、揮散体30の一部が外部に露出するような構造であってもよい。

【0055】

<4-5>

上記実施形態の薬液の成分は一例であり、揮散体30に吸い上げられ、揮散されるのであれば、他の成分の薬液を使用することもできる。

【0056】

<4-6>

上記実施形態の薬液揮散装置は、容器10、カバー部材20、及び揮散体30の3つのパーツにより構成されているが、外形上、これらの機能を奏する構成を備えていれば、こ

10

20

30

40

50

れら３つのパーツをさらに複数のパーツで構成することもできる。その場合、異なる材料でパーツを形成することができる。

【００５７】

容器１０及びカバー部材２０は樹脂材料で形成されることが好ましいが、一部に金属を用いることもでき、材料は特には限定されない。

【符号の説明】

【００５８】

１０ 容器

２０ カバー部材

２３ 第１吸液部材

２４ 第２吸液部材

３０ 揮散体

10

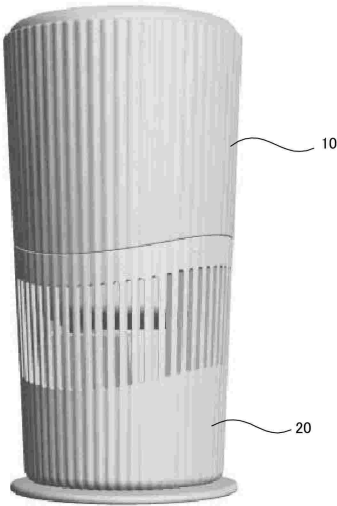
20

30

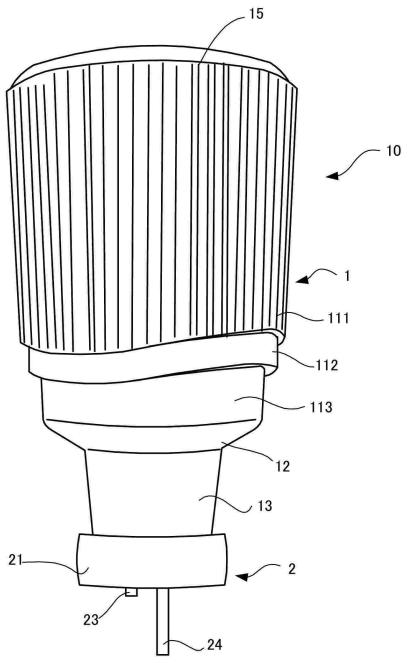
40

50

【図面】
【図 1】



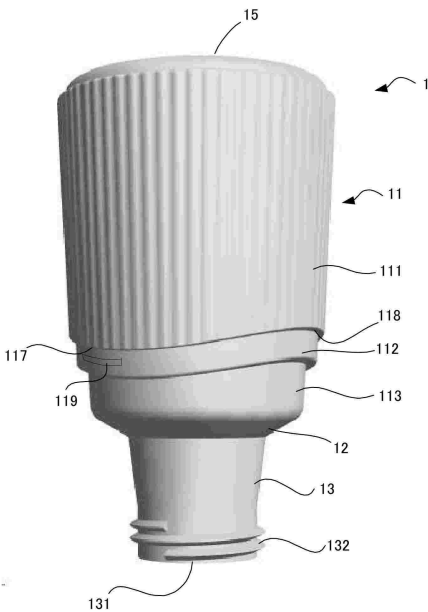
【図 2】



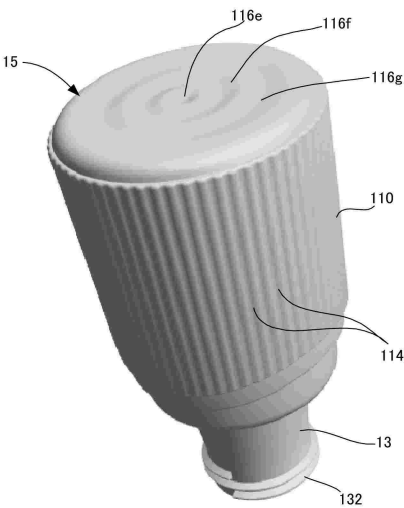
10

20

【図 3】



【図 4】

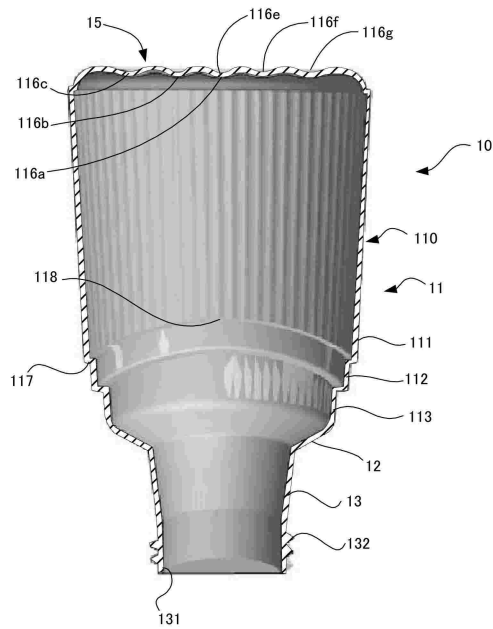


30

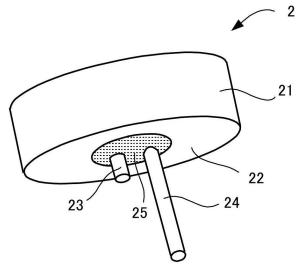
40

50

【図 5】



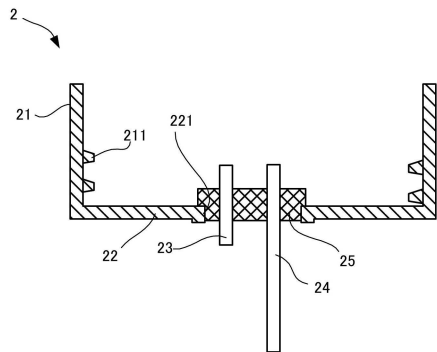
【図 6】



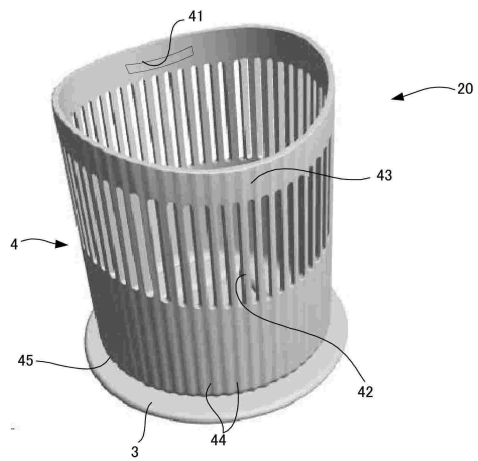
10

20

【図 7】



【図 8】

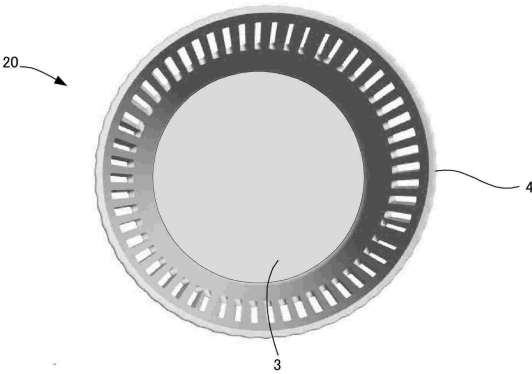


30

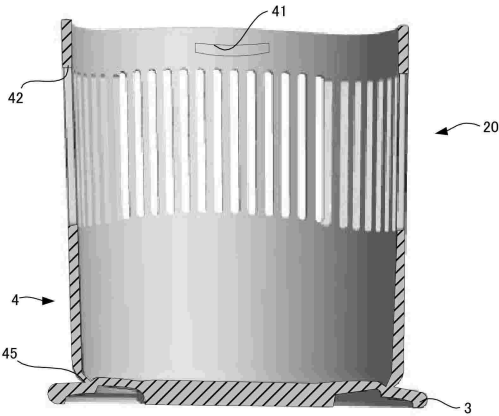
40

50

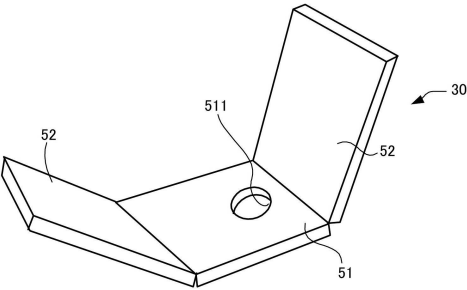
【図 9】



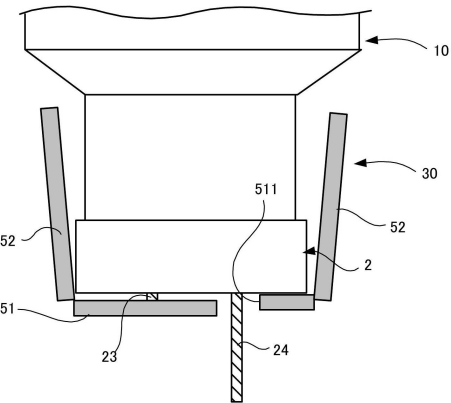
【図 10】



【図 11】



【図 12】



10

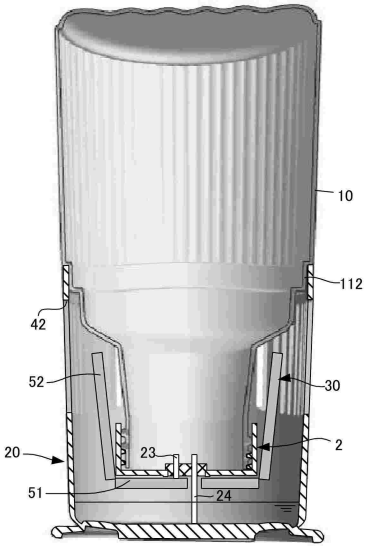
20

30

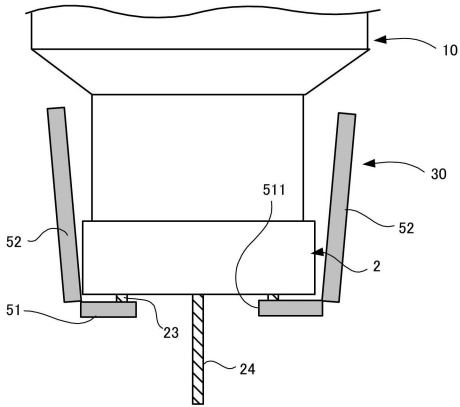
40

50

【図 13】



【図 14】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

審査官 壺内 信吾

(56)参考文献 特開2006-095269 (JP, A)

特開2004-008665 (JP, A)

実開昭56-006444 (JP, U)

特開平09-253185 (JP, A)

実開昭57-058307 (JP, U)

実開昭61-194536 (JP, U)

(58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)

A61L 9/00-9/22

A01M 1/00-99/00

B65D 83/00, 83/08-83/76

B65D 85/00-85/28, 85/575

A45D 33/00-40/30